

令和3年2月19日（金）

2分の1成人式 あいさつ

- 4年生の皆さん、そして保護者の皆様、本日、無事、2分の1成人式を迎えられ、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。
- さて、4年生の皆さん、2分の1成人式にはどのような意味があるのでしょうか。ちょっと一緒に考えてみましょう。
- 2分の1成人式とは、20歳の半分、つまり10歳を祝う儀式です。10歳という年齢は、皆さんの成長を考えた上で、とても大切なひとつの節目です。
- 実は、この2分の1成人式には、2つの意味があります。
- 一つは、生まれてから今日までを振り返る日であるということ。もう一つは、これからの自分の将来について考える日であるということです。
- まず、一つ目についてもう少し具体的に考えてみましょう。では、皆さん、これまでの10年間を思い出してみてください。
- 生まれてから、保育園、幼稚園に通って、そしてこの学校に入学してきました。ずいぶん大きくなりましたね。いろいろなことがありました。でも、自分だけの力で大きくなったわけではありませんよね。
- これまで皆さんを大事に、大事に育ててくれた、お家の人、学校の先生、近所のおじさんおばさん、こうした周りの人たちに、心から感謝し、そして「これからもよろしくお願いします」ときちんと言える人でいてください。
- そして二つ目。一般的に、大人と言われる二十歳までの折り返しの時期に来ました。この後の10年を想像してみてください。どんな大人になっているのでしょうか。あるいは、どんな大人になりたいですか。
- 知らない世界を想像することは、とても難しいことですよね。どんな仕事をしたいですか。どんな人になりたいですか。と訊かれても困ってしまうかもしれません。
- そんな時は、有名な人や身近な人に、目標になる人を作れるといいですね。「将棋棋士の藤井聡太さんみたいな人になりたい」とか、「ハンドボール部の〇〇お姉さんみたいな人になりたい」とか。
- さて、過去を振り返り、未来を想像してみました。では、次に為すのは何でしょ

う。そう、過去と未来の間、つまり、今をしっかりと生きることです。今をしっかりと生きることの積み重ねが、未来を創ることになるからです。

- この東原庁舎中央校では、君たち4年生を「基礎学年の完成期」と位置付けています。
- つまり、この4年生までに、国語や算数の基礎基本をきちんと身につけ、あいさつや返事といった生活の習慣、あるいは、学校でも家でもきちんと机に向かえろといった学習の習慣をしっかりと身につけて、次の段階である5、6、7年という中学年を迎えてほしいと思っています。
- そこで、最後に、みなさんに、はなむけの言葉を贈り、締めくくりとします。
- その言葉とは、「迷った時は、キツイほうを選ぶ」です。
- ここに大きな荷物と小さな荷物があつたとします。どちらを選びますか。
- ラクをしたいのはみんな同じです。だからこそ、自分からキツイほうを選べる人は、すごい人です。そんな人はみんなから信頼されます。
- どうか皆さん、「迷った時は、キツイほうを選ぶ」。この言葉を胸に、これからの生活を送ってみてください。きっとすてきな大人になれるでしょう。がんばってください。
- 最後になりましたが、保護者の皆様一言申し上げます。
- 本日は誠にありがとうございます。お子様方の健やかな成長をお喜び申し上げます。また、これまでのご労苦に心から敬意を表したいと思います。
- こうしたおめでたい中ではありますが、ひとつ「10歳の壁」という言葉についてご紹介したいと思います。
- 「10歳の壁」という言葉を御存じでしょうか。これまで順調に育ってきたお子様でも、勉強や生活につまづきが見られることが、まま、あります。
- この「つまづき」とは、これまでの学習や思考（考え方）が、身近なもの、具体的なものを中心としてきたわけですが、次第に、遠くのもの、目に見えないもの、抽象的なものに広がっていくときに、ついていけなくなることを言います。
- この境目がいわゆる10歳なのです。

- こうした時期には、本を読み、「ことば」に触れる機会を増やすことが大事だと言われています。それは、「ことば」が想像力、見えないものをイメージすることに大きくプラスに働くからです。ですから、ぜひご家庭でも、本を読むことを意識していただければと思います。
- 我々教職員は、責任をもって、お子様方をお預かりしています。学校でも最高の教育を施す所存です。ぜひ、ご家庭と連携しながら、お子様方を健やかな成長へと導きたいと思っています。引き続き、どうぞよろしく申し上げます。
- 以上で私の挨拶を終わります。